いたばし総合ボランティアセンター運営ビジョン2030（素案）に対するパブリックコメントの実施結果

1　実施概要

募集期間	令和 5 年 9 月 25 日（月）～10 月 10 日（火）
周知方法	・区ホームページへの掲載 ・広報いたばしへの掲載（9 月 23 日号） ・区公式 X（旧ツイッター） での配信 ・板橋区地域振興課 X（旧ツイッター）での配信 ・区立施設等への配架 【配架場所】 ・地域振興課、区政資料室、区立図書館（全 11 館）、地域センター（全 18 か所） ・「パブリックコメント等区民参加情報配信制度」登録者への情報配信 ・庁舎内の広告付電子掲示板での周知
募集対象	・区内在住・在勤・在学の方 ・区内に事業所・事務所を有する個人・法人・各種団体 ・区内で活動する個人・法人・各種団体
提出方法	・直接持参 ・郵便 ・ファクシミリ ・電子メール ・Ｗｅｂ回答
公表資料	いたばし総合ボランティアセンター運営ビジョン2030（素案）
意見数等	意　見　提　出　数：22件(パブリックコメント回答対象12件) （現ボラセン運営に関するご意見等10件） 提　　出　　人　　数 ：9名(内1名が持参及びメールにて意見提出) 提出方法別人数 ：直接持参3名、郵送0名、ファクシミリ2名、 電子メール1名、Ｗｅｂ提出4名

2　パブリックコメントと区の考え方

次ページ以降のとおりとなります。

なお、いたばし総合ボランティアセンターの一事業についてや、本ビジョンと直接関わりのないご意見等については、最終ページ下部でのご紹介とさせていただきます。

いたばし総合ボランティアセンター運営ビジョン2030（素案）に対するパブリックコメントの実施結果

◎募集期間：令和 5 年 9 月 25 日（月）～10 月 10 日（火）
◎件数22件(パブリックコメント回答対象12件、現ボラセン運営に関するご意見等10件)
◎9名（内1名が持参及びメールにて意見提出）
（直接持参3名、ファクシミリ2名、電子メール1名、Web提出4名）

貴重なご意見ありがとうございます。以下のとおり「区の考え方」として回答いたします。

No.	項目	意見の概要	区の考え方
1	第1章 1策定の背景と目的	P.1「1　策定の背景と目的」にある「今後のボラセンが担うべき役割」、これこそが大きなテーマでもっとこれを議論すべき。その為に、区役所、社協、区民、団体がどのような行動をとるのが最適なのかを導くべき。	板橋区ボランティア活動推進協議会において、「今後のボラセンの担うべき役割」を議論・検討し、可視化したものを「ビジョン（将来像・基本理念・運営方針）」という形でP7に記載しています。 また、区民・地域団体・法人・区に期待する役割はP8で明記していますが、さらに主体を細分化して各々の行動・役割を定めていくかどうかは、引き続き、いたばし総合ボランティアセンター（以下「ボラセン」という。）の役員会・運営委員会（P20記載）等で検討していきます。
2	第2章 2将来像・基本理念・運営方針	板橋区は約20年間全国的にも特殊な「4者協働」というボラセン運営形態をとっていて、この間の検証と評価を区外の有識者を交え議論し、そのうえで運営が最適となるようにビジョンを策定すべきだったと考える。ボラセンと各NPOや各機関は、そもそも役割が違う。「4者協働」という言葉であいまいにせず、役割をもっと言語化してわかりやすくすべき。	ご指摘のとおり「区民・NPO法人・社会福祉協議会・板橋区」の四者による協働設置によるボラセンの運営は全国的にも珍しい運営形態でした。 本ビジョンは、板橋区ボランティア活動推進協議会委員として学識経験者２名も加わり、これまでの経緯もご理解いただいたうえで、作成しています。 また、他自治体のボラセン運営もそれぞれ課題があり、多くの形態や対応が存在していると認識しています。（「4者協働」の各主体の役割については、上記No.1の「区の考え方」のとおり。） 今後、ビジョンに基づき2030年までの間に、協働設置のあり方や各機関等の役割について、様々な意見等を踏まえながらボラセンを発展させていきます。

No.	項目	意見の概要	区の考え方
3	第3章 1プラットフォームの構築	P.9「第3章今後の方向性　1 プラットフォームの構築」について、「プラットフォーム」はカタカナ語でわかりにくいため、もっとわかりやすい言葉で説明すべき。そもそも、ボラセンの大きな役割は調整機能（コーディネーション）で、プラットフォームは「場所（ネット空間も含む）」。もっとイメージしやすい表現をすべきだ。 プラットフォームといえば鉄道駅の乗降する場が一例。様々な方向に行きかう列車と人々が下りたり待ったり「行うべき場所」。 確かにボラセンとはその鉄道駅のプラットフォームのような役割も必要だが、それは具体的にはどのような事例なのか。具体例を多く出してわかりやすくすべき。	プラットフォームの機能や運用事例は、P26の資料編「3-1いたばし総合ボランティアセンターにおけるプラットフォーム」において説明しており、記載のような機能を板橋区でも実現させていくことを目指していきます。 ご指摘のとおり、プラットフォームという言葉に馴染みのない方や、イメージが付きにくい方もいるため、多くの区民に理解いただけるよう、丁寧な周知活動と、参加しやすい仕掛けやイベント・講座を展開していく予定です。 中間支援組織として、コーディネーション機能は大切な役割であることから、本ビジョンではプラットフォームという「しくみ」を用いることにより、多くの個人・団体・法人等と連携し、新たな活動や機会の創出、マッチングを含めた連携・協働を生み出していきます。
4	第3章 2(2)方策2：活動拠点の充実	ビジョンの中に「外国につながる子どもの支援(以下、子ども支援)」を取り上げてほしい。子ども支援には区をあげての取組が必要であり、その取組への参画をビジョンの中に明確に位置付けてほしい。 ボランティア活動推進協議会の委員名簿と専門部会委員名簿には、外国人も日本語教育専門家も教育委員会もICIEFも子ども支援を行っている団体も含まれていない。	外国につながる子ども支援については、本ビジョンでも記載しているSDGｓの「誰一人取り残さない」という視点においても重要です。 本ビジョンP11で示している地域と学校との連携・協働による支援が大切であることから、関係部署や関係主体と連携し、多角的に検討します。 また、教育の視点や多文化共生の視点を取り入れるために、小・中学校の校長やICIEFに所属する方に委嘱しています。（P21の資料編1-5「ボランティア活動推進協議会委員名簿」参照）
5	第3章 2(2)方策2：活動拠点の充実	ボラセンの教室予約の時間帯をしての有効活用に取り組んでほしい。現在の教室予約の時間帯は3種類だが、午前と午後の間の1時間と午後と夜間の間の1時間を改訂して、午後と夜間に2時間の2コマができるように再編することにより、限られた教室を有効に活用することにつながり。夜間が2コマ可能になれば、支援が受けられる中学生の数を増やすことが可能になる。 教室をシェアできるような仕組みを作れば、さらに増やすことが可能になる。	本ビジョンは、ボラセンの運営における方向性を示したもので、具体的な施設予約の時間等のご意見については、今後の運営の参考にいたします。

No.	項目	意見の概要	区の考え方
6	第3章 2(2)方策2： 活動拠点 の充実	夏休みの教室を確保して、小学校および中学校との連携に取り組んでほしい。子どもに必要なのは日本語支援だけではく、算数や数学等の積み重ねが重要な教科の学習支援が重用である。ボラセンが教室のコマ数を確保して、学校と学習ボランティアを結び付ける役割を担えば、夏休みに補講をおこなう仕組みが可能になる。	子どもの学習支援は、重要な課題であると認識していますが、ボラセンが教室のコマ数を確保して夏休みの補講を行う仕組みについては、教育の関係部署や関係主体との協議が必要なため、直ちに実現することは困難な状況であることから、運営上の検討課題にいたします。
7	第3章 2(2)方策2： 活動拠点 の充実	「予約コンシェルジュ(仮称)」制度が必要。現在の団体の登録の方法は、団体の申請書どおりである。活動団体が増えている状況でさらにボラセンが活動団体を増やそうとしていることは持続可能性に疑問がある。「予約コンシェルジュ」がボラセンを含む団体の活動内容活動状況、活動計画を把握し、ボラセン、センター運営団体、新規登録団体、活動中の団体に、ボランティアセンター(分室ができた場合は分室を含む)の教室を有効活用する観点から、相談に乗ったり、リコメンデーションを出したりすることで、持続可能なボラセンの運営が可能となる。	本ビジョンは、ボラセンの運営における方向性を示したもので、「予約コンシェルジュ(仮称)」制度の導入などの具体的な施策については示していませんが、最新のICTを活用することは今後必要になるとの認識ですので、運営上の検討課題にいたします。
8	第3章 2(2)方策2：	施設（教室）を利用する団体の分析を行うことをビジョンに取り込むことを薦める。	本ビジョンは、ボラセンの運営における方向性を示したもので、具体的な団体登録状況の調査・分析に関するご意見は、今後の運営の参考にいたします。

No.	項目	意見の概要	区の考え方
9	第3章 2(2)方策2 活動拠点の充実	町会では地域課題の解決に向け日々活動しているが、役員などが集まり話し合い等をするスペースの確保が課題となっている。 常にオープンなスペースがあれば、急な集まりも実施でき、また日中は役員が常駐することができれば高齢者の孤立や子どもたちの学習支援などの課題への対応にも道が開けていくと考える。 また、学校の施設を借りることは様々な制約があり困難を伴っている。 ボラセンの活動拠点が地域に整備されれば、情報の共有もしやすくなり、さらに施設の一部を町会が利用・運営協力するなどの柔軟な措置がされれば、さらに相互に活動が進展すると考える。 課題解決に向けての活動は、活動の場があってこそ成り立つため、「人と人とがリアルに出会い、つながれる場」が早急に求められる。 そのためには「区」が自治体としてその役割を十分に果たすことが重要であり、今回策定される「ビジョン」が絵に描いた餅にならないよう、区が力を発揮するよう期待する。	ボラセンが様々な主体と連携・協働することが今後の活動の活性化には必要不可欠ですので、ご意見を参考に、多様な協力体制を各地域で築けるよう、地域の実情を鑑みながらビジョンに基づく環境の整備を検討していきます。
10	第3章 2(3)方策3： 多様な周知媒体の活用	2030年を捉えたビジョンを目指すのであれば、「多文化共生」を視野に入れる必要がある。これには、公益財団法人　板橋区文化・国際交流財団との協働活動が必要になると考える。現在のボラセンからの、ホームページなどを活用した発信はすべて日本語で行われており、難しい日本語の場合も多い。	ご指摘のとおり、多文化共生は区にとっても重要な視点であり、多言語化を視野に入れた情報発信も必要と考えます。 やさしい日本語を使うことで、ご覧いただく方々が容易に情報を得て、ボランティア活動へ参加するきっかけになると考えています。
11	資料編1-2 いたばし総合ボランティアセンターのあゆみ	18ページ「1-2いたばし総合ボランティアセンターのあゆみ」で事務局運営の説明があるが、運営者が変わり何が良くなり何がうまくいかず、それにどう対処したのか、わかりやすく説明すべき。	ボラセンの事務局運営については、受託いただいた各法人の強みを生かし、区内のボランティア・市民活動の発展・活性化に尽力いただいてます。 また、ボラセン事務局の受託法人が変更となっても、平成18年度から現在に至るまで、適宜、役員会・運営委員会等の場を活用し、合議による検討を行いながらボラセンの運営がなされています。

No.	項目	意見の概要	区の考え方
12	資料編1-5 ボランティア活動推進協議会委員名簿・専門部会委員名簿	協議会委員と運営委員会役員会の選任過程をもっとはっきりとしてほしい。	役員会については、学識経験者及びボラセンの運営に携わる法人・団体等からの選任をしております。 運営委員会については、さらに公募による委員の選任もしております。 協議会については、上記選定方法に加えて、ボランティアに関わる各主管課の推薦を受けた委員の選任もいたしました。 今後も、分野に偏りが無いよう幅広く委員を選任していきます。

【その他】
・ボラセンの主催事業に対するご意見・ご感想（１件）
・「いたばしボランティア基金」の周知に関するご意見（４件）
・「いたばしボランティア基金」の寄付金控除制度に関するご意見（１件）
・「いたばしボランティア基金」の名称に関するご意見（４件）